

GXと創造的破壊

創造的破壊の重要性についてはこの欄でも何度か指摘してきた。イノベーションには本質的に破壊的な面があり、旧来のビジネスを破壊しながら新しい産業の芽を育てていく。米国の経済を主導するデジタル関連の巨大企業は全てベンチャーとして出てきた企業ばかりである。デジタル技術には破壊的な側面が非常に強く、それが米国の経済の活力の源泉でもある。今や、創造的破壊なしには経済の成長はありえないと考えるべきだろう。

今回は、創造的な破壊をGX（グリーン・トランスフ



伊藤元重の

エコノウオッチ

オーメーション)で考えてみたい。気候変動への対応は社会を総動員するような動きを求めるものだ。化石燃料を再生可能エネルギーに置き換え、自動車は全て電気化し、水素やアンモニアのネットワークを確立させる。こうした取り組みを限られた時間の中で実現しようとする、社会の大変革となるが、そのためには創造的破壊の助けを借りるしかない。気候変動問題は市場の失敗と呼ばれる資本主義経済がもたらした大きなゆがみから生まれたものである。そのゆがみは小手先の対応や政策だけでは正

気候変動で価格体系に変化

できるものでもない。資本主義のパワーを活用して是正するしかない。創造的破壊に頼ることになるのだ。

創造的破壊の下では、旧来のやり方が破壊されていく。破壊されるからこそ、新たなビジネスのチャンス、つまり創造の芽も出てくる。創造的な破壊の担い手はベンチャーである。文字通りのベンチャービジネスが多く出てくることを期待したいが、既存の企業もベンチャースピリットを持つことが求められる。既存のビジネスを伸ばすことも重要だが、新たな取り組みに挑戦することが求められる。もちろん全て自社内でやるというよりは、外の企業と連携すること、M&A

で取り込むというようなことが求められる。

岸田総理はロンドンでの講演で、「成長志向型カーボンプライシング」と発言している。気候変動という壮大な規模の市場の失敗を是正できるのは市場（資本主義）しかないと言ったが、その鍵となるのは価格体系である。市場が機能するためには価格メカニズムが鍵となるからだ。気候変動への創造的破壊的な対応を促す柱として、政府としてもカーボンプライシングを真剣に考えざるをえない。

ウクライナ問題で資源価格が高騰しており企業は苦しんでいる。地政学的な問題で経済に負荷がかかるのは困ったことだが、近い将

来こうした問題が解消して資源価格が大幅に安くなると思えない方がよいだろう。ウクライナ問題は一刻も早く解決の方向に向かつてほしいと願っているが、それによって化石燃料を大量に利用できる経済に戻るわけではないからだ。創造的破壊の波の中で企業がチャンスをつかむためには、自らがその破壊の担い手になることである。グリーンやデジタルが破壊の原動力であることは間違いない。今回はグリーンの話を取り上げたが、気候変動問題で巨額の資金が動き、価格体系が大きく変わろうとしていることに注目してほしい。

(東京大学名誉教授)